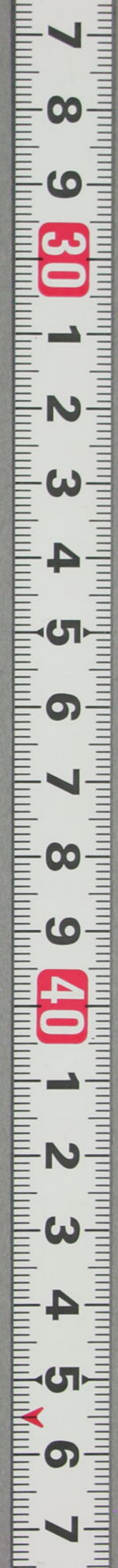


東
道膝栗毛 四編

^ 13
3791
3



門 13
號 3791
卷 3

此編外宮廣小路の宿を出てより。未だ八尋が補巻の
一友人稿本を閲せり。本編ハ戯言も実あり。其行のハ

本編ハ戯言も実あり。其行のハ

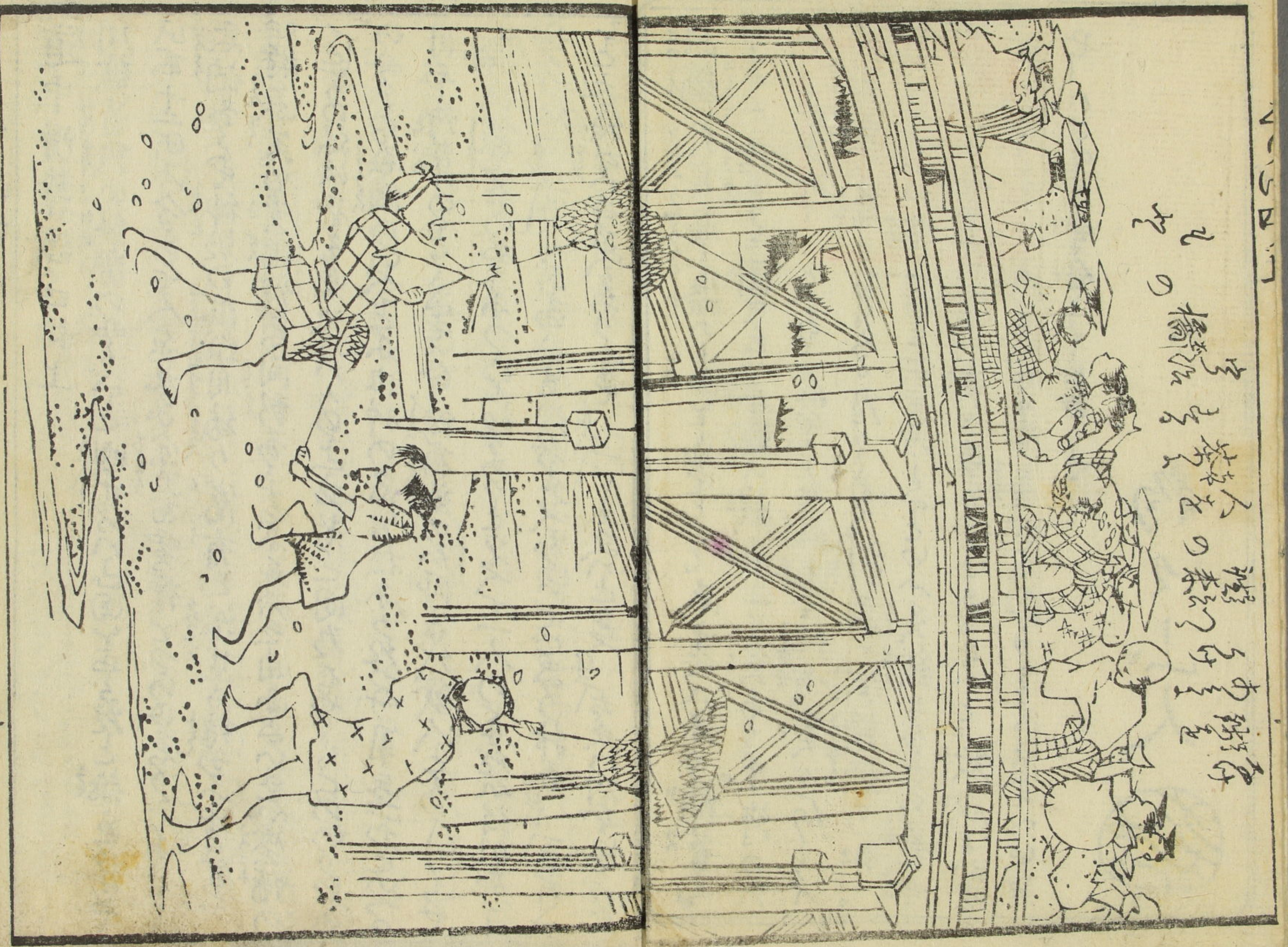
此編外宮廣小路の宿を出てより。未だ八尋が補巻の
一友人稿本を閲せり。本編ハ戯言も実あり。其行のハ

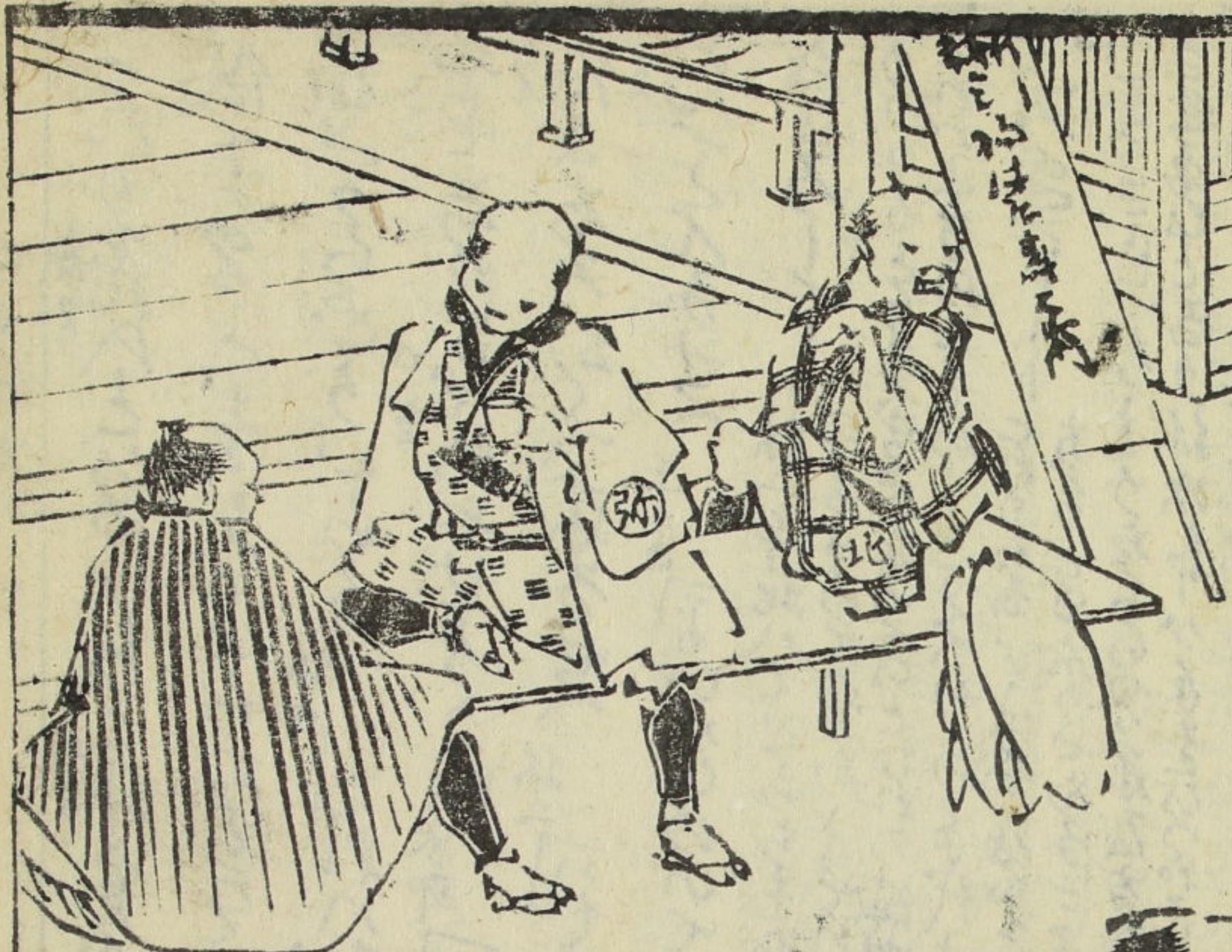
物々上人



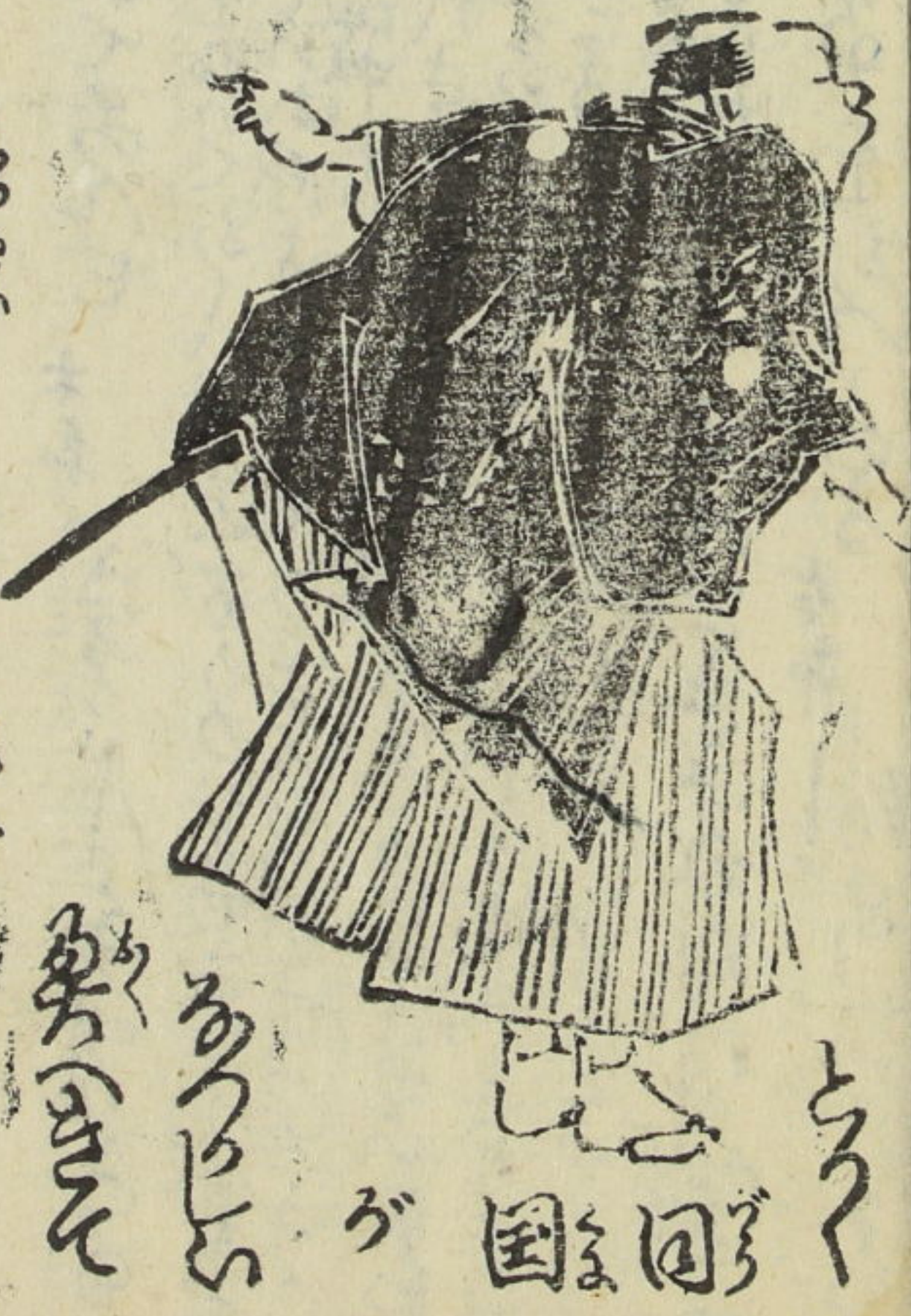
ガザヨ

舟の橋
茶を
茶の
舟
舟



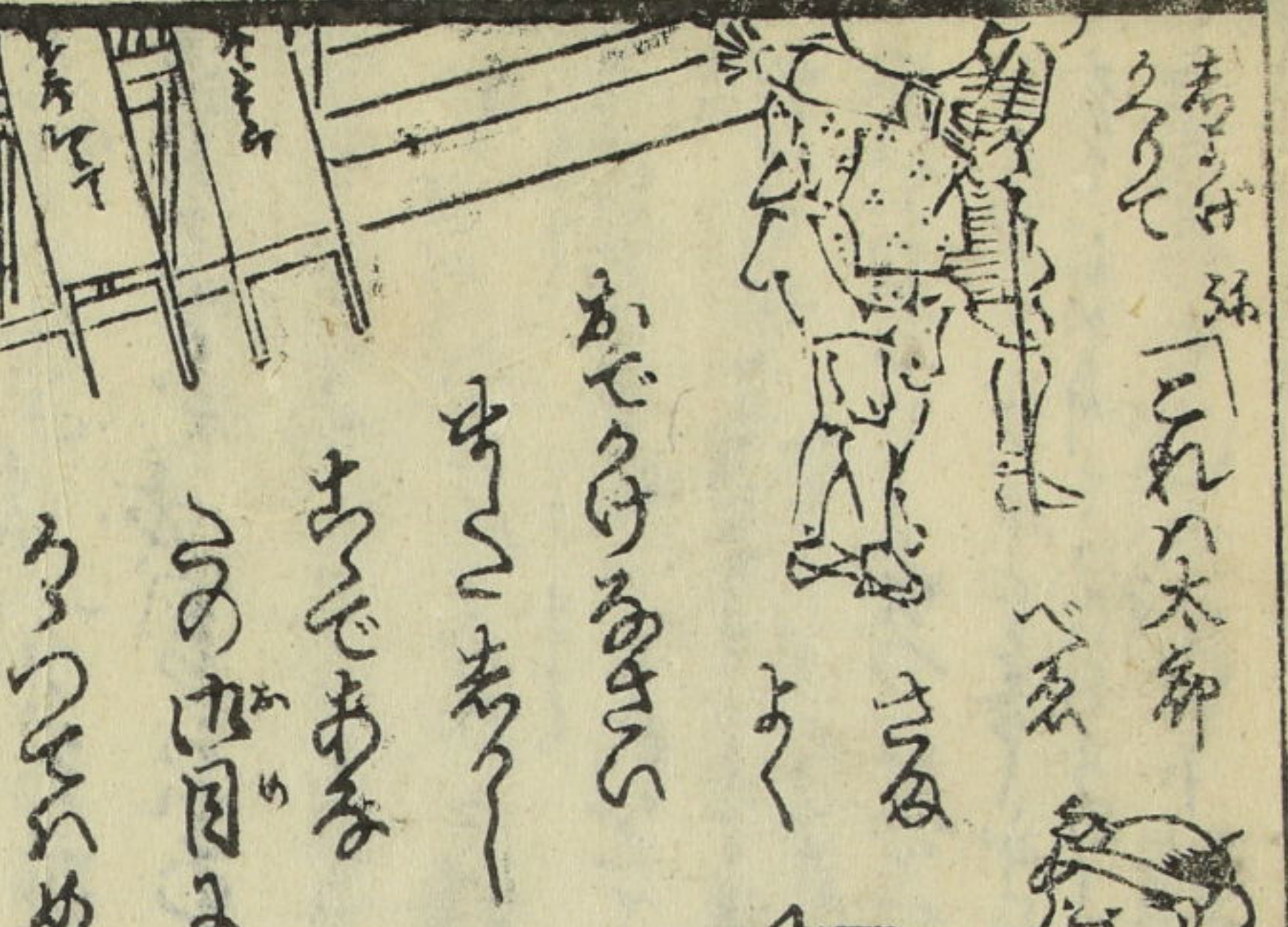


一層やらうーお二 ありがとう
お二 ありがとう
お二 ありがとう
お二 ありがとう
お二 ありがとう



方解「あおさく」
 方解「あおさく」
 方解「あおさく」

あつこねびの



溝うらてあつ
 の溝うら親おや
 と
 え
 ら
 の
 り
 と

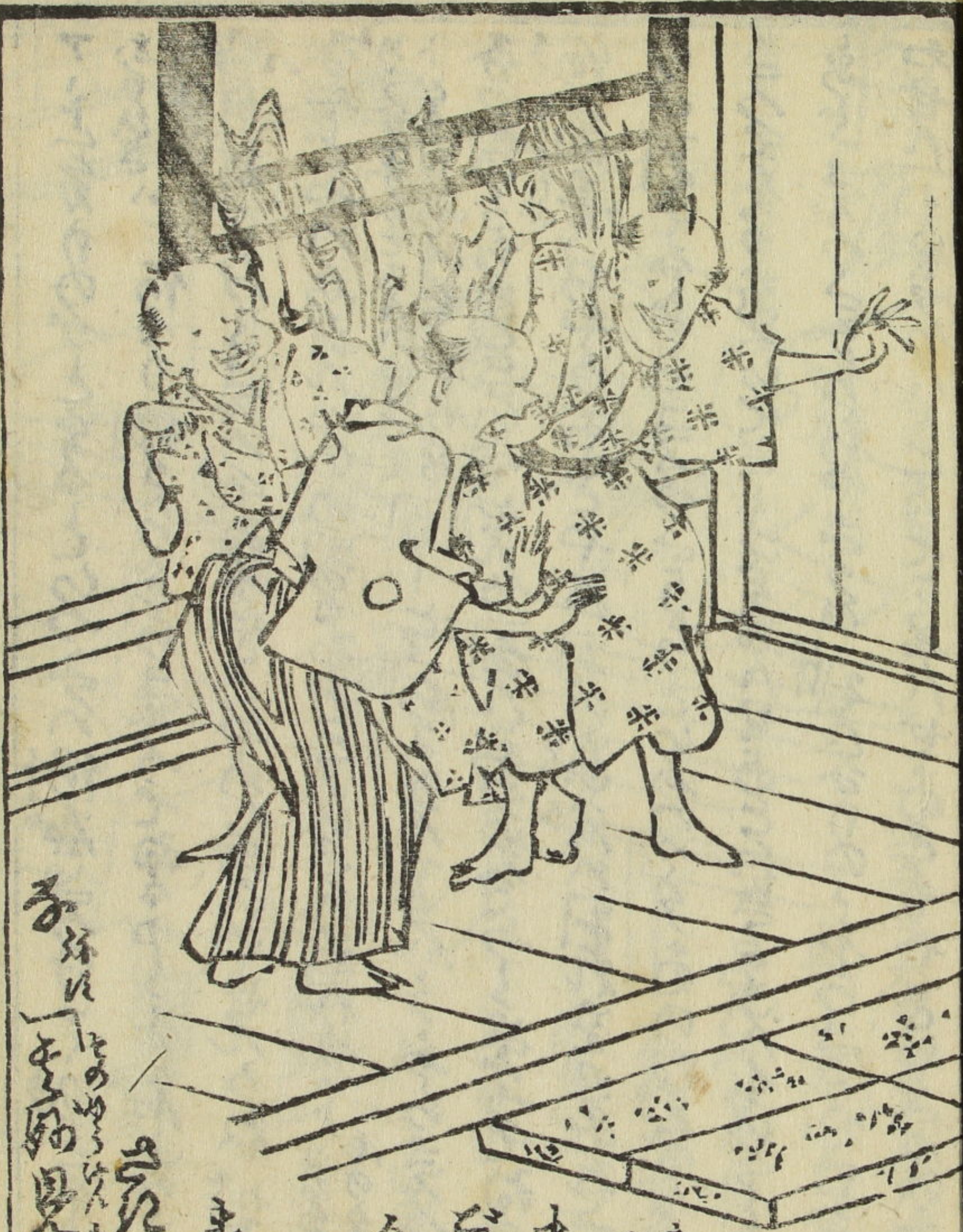
方解「あおさく」
 方解「あおさく」
 方解「あおさく」

あつこねびの

此の地にて
 借はるる土地の所有者は、
 借主と貸主との間に、
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。

借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。
 借主は土地を借り、
 貸主は土地を貸す。

こけり
 申すト
 つもらぬ
 うちよて
 こめとちるを
 まいつらると
 丹桂の
 ちく
 ちく
 ちく
 あゝ
 ありー
 ちちづみ



子孫に

そのゆくけんま

さねおとる

またーは

いんせ

うね

かたしを

まの

めとの

あゝ

あゝ

うんせ

をーろて

うのみやど

あゝ

とより

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

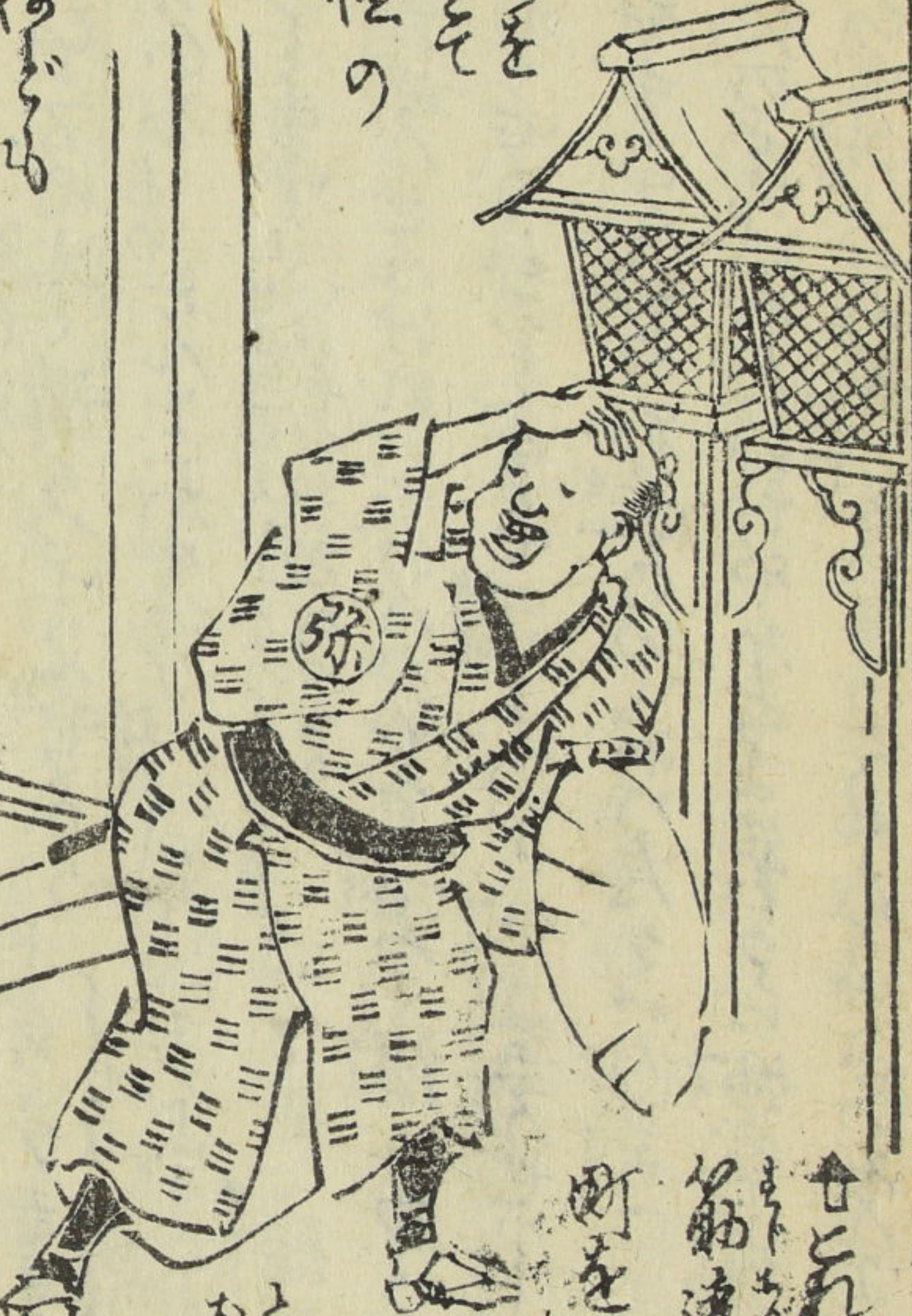
あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ



あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200

てあふたつて髪洗をひらめららから 北八

ぬあつてひびけとあつぬとらどい雑衣を馳る者あつたあつた

「どれかれがあらあつてあつて」 髪のををひらめと共

「あつてあつて」 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あつてあつて 髪のををひらめと共

あんなにどぞのあんぢやか并有ぐら催あろう勢別あらんぢ
 秋やと菊壽樓のお毎女郎とのよき契しいかへあらんぢ
 女の無才夫女二重い糸あくも等くも糸都子本道中を愛
 ひよいとあづるところ遠業座ふ太九郎さぬの相寄ぢやと
 わきまのらんせいの下

あつたが愛のあつたがあひ 泳げ
 うことりあひあひあひあひ
 糸の着

えんぢや 糸の着
 ちやあまのらんせこれ女中のか仲長を愛いぬんぢ
 とのふぢぢや 仲長

ハイきんとらんせのらんせ
 秋中座の仲長さんとのよき糸都子も道中を愛いぬんと
 ところ遠業座ふ太九郎が兎林向ひにあらえちのことあ
 り

あつたが愛のあつたがあひ
 うことりあひあひあひあひ
 糸の着

えんぢや 糸の着
 ちやあまのらんせこれ女中のか仲長を愛いぬんぢ
 とのふぢぢや 仲長

ハイきんとらんせのらんせ
 秋中座の仲長さんとのよき糸都子も道中を愛いぬんと
 ところ遠業座ふ太九郎が兎林向ひにあらえちのことあ
 り

あつたが愛のあつたがあひ
 うことりあひあひあひあひ
 糸の着

えんぢや 糸の着
 ちやあまのらんせこれ女中のか仲長を愛いぬんぢ
 とのふぢぢや 仲長

ハイきんとらんせのらんせ
 秋中座の仲長さんとのよき糸都子も道中を愛いぬんと
 ところ遠業座ふ太九郎が兎林向ひにあらえちのことあ
 り

八町がりのきりめん

左の袷は赤き帯との

とらふちこひひころこ

ぬさぬぐき帯

おなごころ

申立書

ひよりのこ

あがる

こと

こ

る香



透栗花

左太九郎

あひうら

のか山

さん

勢別

糸

糸の若

糸部

京

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

糸

おさんまろ 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

く 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

むくつひき 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

名を 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

一首 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

群 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

巫山の雲 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

藤栗毛四編上終

道中滑稽譚四編中

系 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

の 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

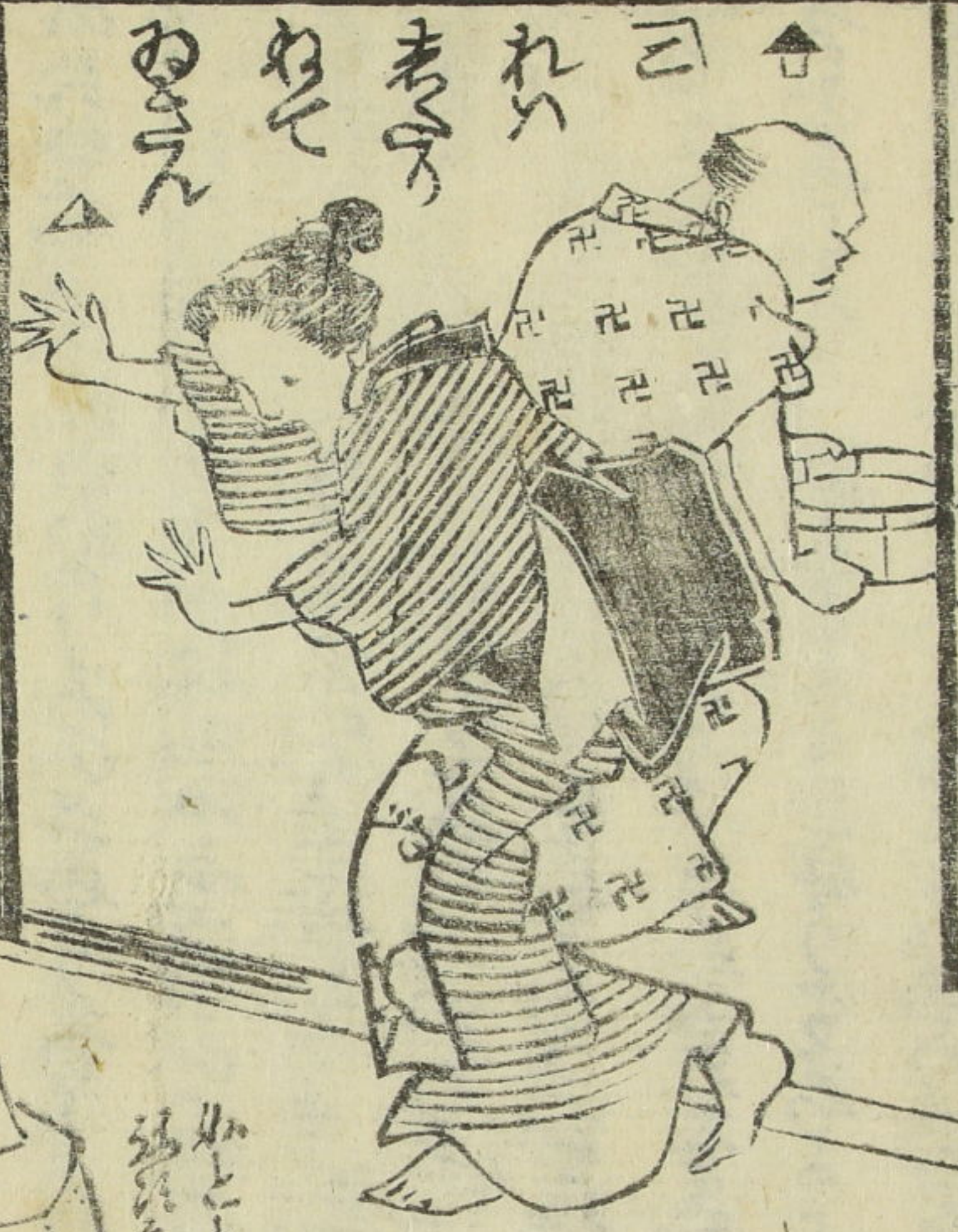
と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

と 北八 引あるともく 北八 引あるともく 北八 引あるともく

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive script with various annotations and symbols.

Main body of handwritten text on the left page, continuing the cursive script with annotations and symbols.

ちんをさう
わらうとさ
つれてくる
をさう合



わえ
わて
考
れ
三

ちんをさう

これそを入こゆら
ちんをさう
わらうとさ
つれてくる
をさう合

ちんをさう

の
ちんをさう
わらうとさ
つれてくる
をさう合



ちんをさう
わらうとさ
つれてくる
をさう合

板屋さまと下とく墨丸を恐ぐ入小引つけくさるさうあつて
 それさまうめさうてうさうさういふあつてくさるさうあつて
 内親様ううのとてうさうさういふあつてくさるさうあつて
 後中の世帯もは糸きとのよめいんせうからあつてくさるさう
 糸のハヤのう金玉入いふせうあつてくさるさうあつてくさる
 さくさるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 うさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 大太夫とびびるおせういんさう方舟「うさくさくさくさくさく
 のさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 なるさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 了ことさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

一おひさまさうさうさうさうさくさくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 づひいひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 一世一代のつりりせあつておせうさうさうさうさうさうさう
 おくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 をさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 お世帯あつておせうさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 志くさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 三 三
 三 三
 おはひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
 三 三
 三 三

庄野 鳥り



そとが後家
宗徳道元孫
附の忌日と

けれどあんで
もらうくと
さうらうのれが
そとであんま
くうくのうら
能阿が能ふる
かえんことい
のうはあうら

そとが後家
宗徳道元孫
附の忌日と
けれどあんで
もらうくと
さうらうのれが
そとであんま
くうくのうら
能阿が能ふる
かえんことい
のうはあうら
そとが後家
宗徳道元孫
附の忌日と
けれどあんで
もらうくと
さうらうのれが
そとであんま
くうくのうら
能阿が能ふる
かえんことい
のうはあうら

木油の味は酸っぱいからとて昔は使われなかつたが
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて

北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて
 北八 薬師がそれを知りては薬汁に用ひて

天竺の事

一七

ありひんそをせんと思ひおぼるる事とよりしそめは傍をのねておる上と云ふは
まことびくうとてちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか

実ハ海が身を砕けてゐるト思つた其をわづらひておぼるる事
のちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
道中滑稽替談四編中下

道中滑稽替談四編下

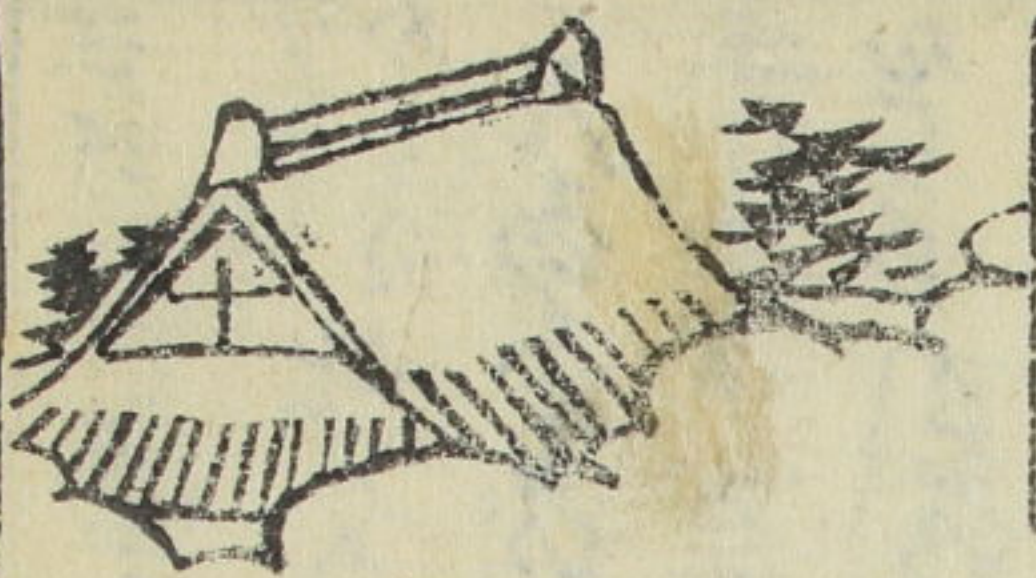
あとうりやうりしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか
まことちうしんていふまはそちのたすのむらひんてらりてか

このガロ



狐が化しやア
 かつふちや
 へわ
 北八まぢ
 へわぢや
 あらあ子
 北八
 りん
 狐ぢやわがごの
 らちぢ
 うぢちぢ

關坂の
 下江
 一ノ半六町



平小油揚をつけよう
 小作勢道基のたんとらる若うね
 小後ぢぢ入まろの女はひま「おは〜」
 狐ぢやわがごの
 北八まぢ
 へわぢや
 あらあ子
 北八
 りん
 うぢちぢ

207

1

梅組さんらにおもむき... 吉原の国がもたらさるるゆうでござる

とゆうふうで梅様といひおはす... 吉原の徳をささ

法眼え伝へるゝとて馬とよも兼ぶるは... 一とてい

かゝるものと梅様とよも兼ぶるは... 吉原の徳をささ

かゝるものと梅様とよも兼ぶるは... 吉原の徳をささ

かゝるものと梅様とよも兼ぶるは... 吉原の徳をささ

かゝるものと梅様とよも兼ぶるは... 吉原の徳をささ

かゝるものと梅様とよも兼ぶるは... 吉原の徳をささ

かゝるものと梅様とよも兼ぶるは... 吉原の徳をささ

かゝるものと梅様とよも兼ぶるは... 吉原の徳をささ

かゝるものと梅様とよも兼ぶるは... 吉原の徳をささ

たあひのり 北八 法眼さん 北八 吉原の徳をささ

梅様 北八 吉原の徳をささ

吉原 北八 吉原の徳をささ

梅様 北八 吉原の徳をささ

吉原 北八 吉原の徳をささ

梅様 北八 吉原の徳をささ

吉原 北八 吉原の徳をささ

梅様 北八 吉原の徳をささ

吉原 北八 吉原の徳をささ

梅様 北八 吉原の徳をささ

207

1

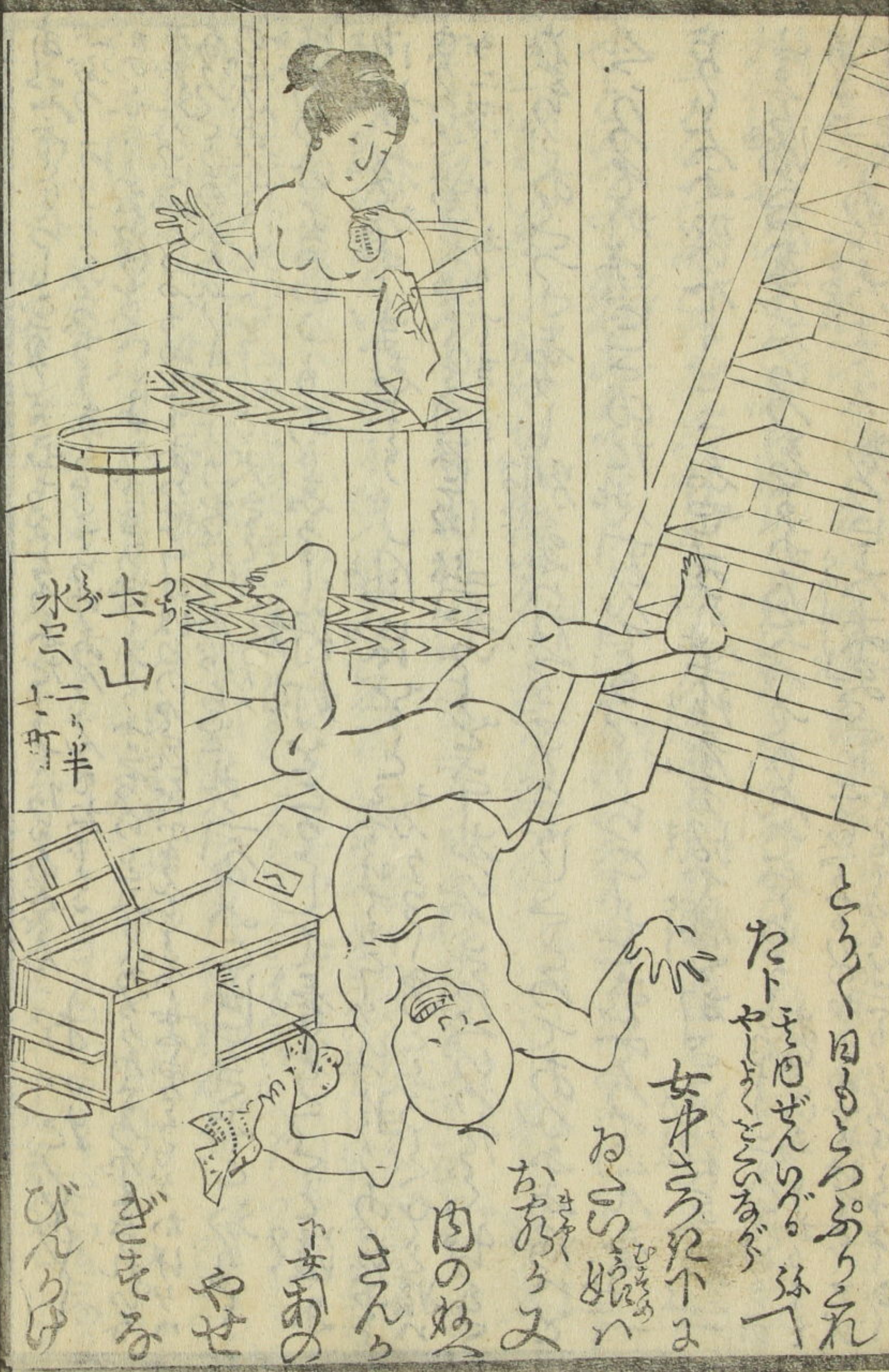
たあひのり 北八 法眼さん 北八 吉原の徳をささ

梅様 北八 吉原の徳をささ

吉原 北八 吉原の徳をささ

梅様 北八 吉原の徳をささ

吉原 北八 吉原の徳をささ



とうく目もろりあらた
 たト 目せんりる 目
 やーうさるるる

女中さうたへ

おんし娘い

かあろ又

肉のぬ

さんら

下女の

あせ

あきさる

びらら

女中さうたへ
 おんし娘い
 かあろ又
 肉のぬ
 さんら
 下女の
 あせ
 あきさる
 びらら
 水三二半



しん 備 々

後と云のであらう

のちの葉がねたもの
 を吹く
 松のの
 ぐく葉

○ ちんちん くの
 考じ
 ろめへ



水口
 三つ

あ び び び
 び び び

い め ろ っ け
 北八

吉田のト... 松本屋とか... かんえん... 水口... 北八

1751

北八
 1751年1月1日
 1751年1月2日
 1751年1月3日
 1751年1月4日
 1751年1月5日
 1751年1月6日
 1751年1月7日
 1751年1月8日
 1751年1月9日
 1751年1月10日
 1751年1月11日
 1751年1月12日
 1751年1月13日
 1751年1月14日
 1751年1月15日
 1751年1月16日
 1751年1月17日
 1751年1月18日
 1751年1月19日
 1751年1月20日
 1751年1月21日
 1751年1月22日
 1751年1月23日
 1751年1月24日
 1751年1月25日
 1751年1月26日
 1751年1月27日
 1751年1月28日
 1751年1月29日
 1751年1月30日
 1751年1月31日

1751年1月1日
 1751年1月2日
 1751年1月3日
 1751年1月4日
 1751年1月5日
 1751年1月6日
 1751年1月7日
 1751年1月8日
 1751年1月9日
 1751年1月10日
 1751年1月11日
 1751年1月12日
 1751年1月13日
 1751年1月14日
 1751年1月15日
 1751年1月16日
 1751年1月17日
 1751年1月18日
 1751年1月19日
 1751年1月20日
 1751年1月21日
 1751年1月22日
 1751年1月23日
 1751年1月24日
 1751年1月25日
 1751年1月26日
 1751年1月27日
 1751年1月28日
 1751年1月29日
 1751年1月30日
 1751年1月31日

1751

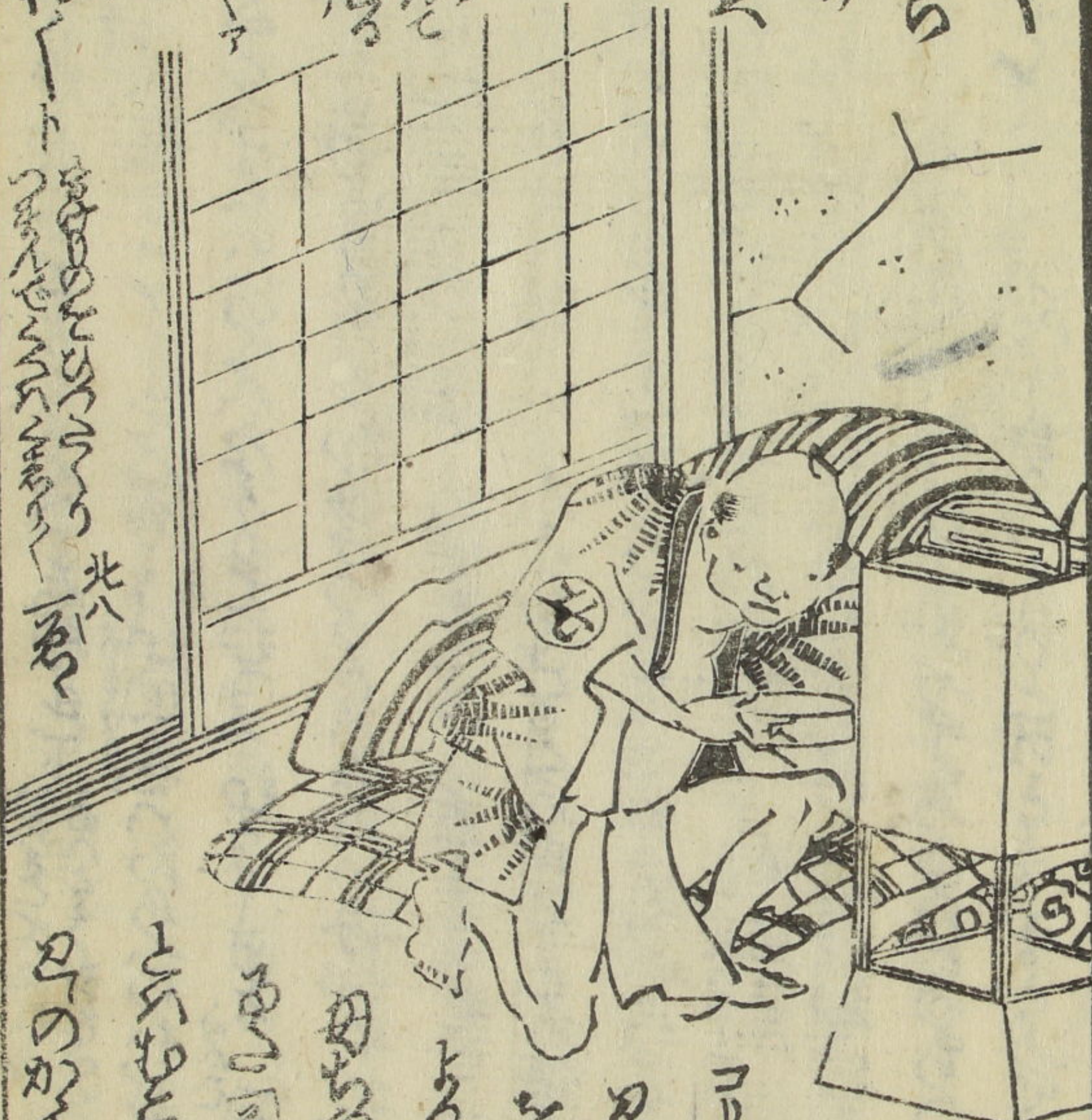
10

おはよう
あつた
まう
おの
おの
おの
おの
おの
おの



おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの

おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの



おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの

Handwritten text in a cursive script, possibly a mix of Latin and a non-Latin language, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. Some characters are written in a larger, more decorative hand, while others are smaller and more utilitarian. There are several instances of what appear to be initials or specific symbols, such as 'S' and 'M', interspersed throughout the lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

藤栗 七四編下ろ

